

TKU LIBRARY NEWS

vol.
8

2016
Winter & Spring

図書館だより
冬・春合併号



春

夏

秋

冬



Contents 図書館活動、総集編！

pp.1-2 図書館活動のあゆみ

pp.3-5 図書館の思い出～教職員部員・図書館員・学生サポーターより～

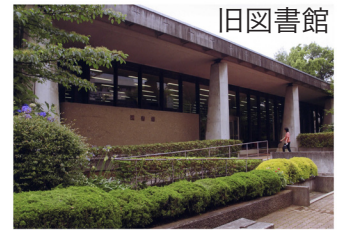
p.6 学生・教職員のオススメ本

東京経済大学図書館

図書部活動のあゆみ

教育改革支援制度（「進一層トライアル」、スタート時は「学内 GP」）採択事業として、2013年6月よりスタートした図書部。ここでは、図書部活動の目的と、そのあゆみについてご紹介します。

東京経済大学の旧図書館は2014年2月1日に約46年の歴史を閉じ、同年4月より新たな図書館に生まれ変わりました。東経大「図書部」は2013年6月に発足し、旧図書館の閉館を見届け、新図書館の利用促進に取り組んできました。読書は大学での学修の基礎であるのみならず、豊かな教養を育くみ、一生の趣味にもなるものです。図書館を軸にしてより多くの学生に読書に親んでもらうため、教職員・学生協働による新たな図書館のあり方を議論し、次に示す学内・学外での様々な活動を展開してきました。今回の特集では図書部3年間の活動を振り返り、今後の図書館における利用促進活動の展望について述べます。



旧図書館

読書会

指定されたお題本を読み、ファシリテーターのもと、読んだ感想を参加者で話し合う集まり。学生の関心を引き出すため多様な書籍を取り上げ、これまで16回開催しました。学長や学外のゲストがファシリテーターを担当することも。



< 2013年度 >

- 11月15日（金）小谷野 敦『もてない男』（相澤 伸依）
- 12月20日（金）西原 理恵子『この世でいちばん大事な「カネ」の話』（相澤 伸依）
- 2月 1日（土）西 加奈子『きりこについて』（相澤 伸依）

< 2014年度 >

- 5月13日（火）大野 更紗『困ってるひと』（相澤 伸依）
- 6月26日（木）辻村 みよ子『代理母問題を考える』（相澤 伸依）
- 7月14日（月）小田中 直樹『フランス7つの謎』（相澤 伸依）
- 10月25日（土）マイケル・サンデル『これからの正義の話をしよう』（池田 誠）
- 11月14日（金）F. ニーチェ『喜ばしき知恵』（菊地 建至）
- 11月28日（土）星 新一『人民は弱し 官吏は強し』（新正 裕尚）
- 12月10日（水）有川 浩『フリーター、家を買う。』（堺 憲一）
- 12月16日（火）東 浩紀『動物化するポストモダン』（高津 秀之）
- 1月13日（火）安彦 麻理絵『コンナオトナノオンナノコ』（相澤 伸依）

< 2015年度 >

- 5月11日（月）原田 マハ『本日は、お日柄もよく』（堺 憲一）
- 6月 5日（金）宇野 常寛『リトルピープルの時代』（高津 秀之）
- 6月25日（木）ジャレド・ダイヤモンド『文明崩壊（上）』（板橋 雄大）
- 10月16日（金）J.S. ミル『自由論』（菊地 建至）

選書展示

教職員・学生がテーマに沿って選書し、POPを付して展示しました。標本や関連グッズなども合わせて展示することも。また、初年次ゼミや語学などの正課授業と連携した選書展示で大学での学習方法の修得支援も行いました。



< 2013年度 >

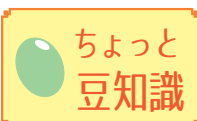
- 「元素と周期表の本たち」（新正教授）
- 「食の本特集」（相澤准教授）
- 「教養の本棚」（全学共通教育センター）
- 「疑似科学と科学」（榎准教授・新正教授・相澤准教授）

< 2014年度 >

- 「大学での勉強 キソのキソ」（相澤准教授・久川准教授・柴内教授・新正教授）
- 「世界の言語と文化を学ぶ」（相澤准教授ほか）
- 「東海道新幹線開業50周年」（東経大有志・図書部共催、図書部だより秋号連動）
- 「宮澤賢治とふしぎな石」（TKUサイエンスシリーズ・図書部共催、標本展示と選書企画）
- 「伝記を読む」（図書部・専任教員多数）
- 「恋愛を考える」（相澤准教授ほか）
- 「岩波ジュニア新書の世界」（相澤准教授・高津専任講師・新正教授）

< 2015年度 >

- 「Books for freshers」（新正教授ほか）
- 「新入生へのおすすめ本」（図書部、図書部だより春号連動）
- 「大倉喜八郎-越後から江戸へ、そして世界へ-」（学務課・田中）
- 「学生おすすめの本」（新正担当「フレッシューズ・セミナー a」学生）
- 文化会サークル有志による展示（選書・論叢・写真の展示や映画紹介、映像上映など、「文化の花道」連動）
- 「池内了先生の本棚」（「教養入門」連動、ゲスト講師の本紹介）
- 「重富真一氏の本棚」（「大倉学芸振興会学術講演会」連動、ゲスト講師の本紹介）
- 「巽好幸氏の本棚」（「大倉学芸振興会学術講演会」連動、ゲスト講師の本紹介）
- 「おススメ DVD 展示」（相澤准教授）
- 「海外留学&旅行に関するおすすめ本」（図書部、図書部だより夏号連動）
- 「葵祭講演会関連展示」（桜井哲夫教授・大岡玲教授）
- 「ビブリオバトル参加本展示」
- 「箱根駅伝関連書籍展示」



鬼頭梓氏の設計による本学旧図書館は、第20回日本建築学会賞作品賞を受賞しています。これは鬼頭氏の独立後初の仕事であり、高い評価を受けたことで、後に東北大学や横浜国立大学など多数の図書館設計を手掛けることに繋がりました。モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織「DOCOMOMO」のWEBサイトでも紹介されています。

◆ URL : <http://www.docomomojapan.com/registration/>

講演会・トークイベント

本の著者本人を招いた講演会(ブックトーク)や、複数の学内・外教員による座談を含めたトークイベントを開催しました。聴衆からの質疑応答も盛んにおこなわれ、終了予定時刻を超えて対話が続くことも度々ありました。

2013年 11月 20日 (水)	映画上映会「按摩と女」(相澤 伸依・相澤ゼミ)
2015年 1月 9日 (金)	ブックトーク「恋する〈私〉を哲学する」(相澤 伸依・宮野 真生子・藤村 安芸子)
2015年 7月 9日 (木)	トークイベント「宮澤賢治と星と石」(大岡 玲・榎 基宏・新正 裕尚・中田 兼介)
2015年 10月 21日 (水)	ワークショップ「データベース活用実践」(森岡 耕作・現代ビジネス研究所)
2015年 10月 31日 (土)	講演会「戦後漫画の原像」(桜井 哲夫)
2015年 11月 1日 (日)	講演会「虹や月あかりからおはなしをもらってきた作家・宮澤賢治」(大岡 玲)
2015年 11月 26日 (木)	ビスマスワークショップ(新正 裕尚・新正ゼミ)
2015年 12月 15日 (火)	知的書評合戦ビブリオバトル(教職員編)
2016年 1月 14日 (木)	知的書評合戦ビブリオバトル(学生編)



図書部だより「TKU LIBRARY NEWS」

図書館に関する情報提供と学内のコミュニケーション促進を目的として季刊で発行し、様々な特集記事を発信しました。バックナンバーは、東京経済大学学術機関リポジトリ (<http://repository.tku.ac.jp/dspace/handle/11150/1161>) でご覧いただけます。

- vol.1 創刊記念号：巻頭特集 突撃インタビュー「理事長が薦める本」、写真コンテスト、図書館蔵書紹介、図書部員紹介、図書部について
- vol.2 新図書館に潜入、TAC 大学図書館見学、写真コンテスト授賞式、読書案内、東経大図書館の歴史
- vol.3 秋号 秋の読書特集：読書の秋、食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、経営学部 50 周年運動企画展
- vol.4 冬号 「学内のミニ図書室」特集、祝 20 周年！ TAC 特集、図書館から進一層館へ
- vol.5 春号 新入生歓迎特集：Books for freshers、図書館活用のすすめ、語学学習のすすめ、本のある街・国分寺、大倉喜八郎-越後から江戸へ、そして世界へ-
- vol.6 夏号 海外留学&旅行特集：海外留学&旅行のすすめ-書を持って、旅に出よう、東経大の様々なグローバルサポート、助けて、図書館！～図書館が提供する3つの学習支援
- vol.7 秋号 スポーツ&文化の秋特集：スポーツの秋にこの一冊！、文化の秋の「図書部」活動、図書部展示と講習会のご紹介
- vol.8 冬・春合併号 図書部活動、総集編！：図書部活動のあゆみ、図書部の思い出～教職員部員・図書課員・学生サポーターより～

その他のイベント

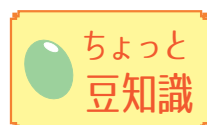
本に関するツアーやコンテストなど幅広いイベントを新たに実施しました。なかには選書ツアーや図書館写真コンテストなど、その後図書館主催のイベントに移行・定着したものもあります。これら図書部の活動については学外のフォーラム等でも積極的に発表してきました。

2013年 6・7月	紀伊国屋書店新宿本店選書ツアー
2013年 9月	大宅壮一文庫のバックヤードツアー
2013年 10月	図書館写真コンテスト
2013年 12月	国立国会図書館見学ツアー
2014年 5月	紀伊国屋書店新宿本店選書ツアー
2014年 12月	国際子ども図書館見学ツアー
2015年 11月	第17回図書館総合展ポスターセッションへの参加
2016年 1月	図書館キャラクター命名コンテスト
2016年 3月	第22回大学教育研究フォーラムポスターセッションへの参加(予定)

総括・今後の展望

ここまで述べた通り図書館内で開催した多様なイベントにより新図書館スペース利用のノウハウを蓄積しました。特に中庭に面したガラス張りのブラウジングスペースでのイベントでは、通りがかりの学生・教職員が、参加学生の議論の様子を眺めてゆくことがしばしば見られました。また、選書展示ではPOPを付した面陳列の書籍はよく手にとられ、貸出率が大幅に向上し、書架には「貸出中」の表示が並びました。このように学生が本に親しむ姿、実際に本が貸し出されている様子を見てもらうことを通じて、学生の読書への心理的ハードルを下げ、読書活動を促進するよう努めました。

今後は図書館が主体となり、今まで培ったノウハウを活かして読書会をはじめとする様々なイベントが継続的に行われる予定です。さらに「図書部」活動の成果はFD活動を通じて正課授業に活かしていただくことも考えています。例としては(1)読書会の実践例を少人数授業等での読書指導につなげる、(2)正課授業と関連した「選書展示」をおこない事前事後学習に活用する、(3)初年次ゼミの中での読書指導を通じて「選書展示」「ビブリオバトル」を行い1年次からの図書館利用の促進やゼミ内容の豊富化を図る、などがあり、一部既に実施しているものもあります。



旧図書館は2014年10月に「大倉喜八郎進一層館」としてリニューアルオープン。元の建築の良い部分を残しつつ、「進一層ホール」や史料展示コーナー「大倉喜八郎と東京経済大学のあゆみ」が新設されました【[本学WEBサイト：2014.10.18付大学ニュースより](http://www.tku.ac.jp/news/014328.html)】

◆ URL : <http://www.tku.ac.jp/news/014328.html>



図書部の思い出～教職員部員・図書課員・学生サポーターより～

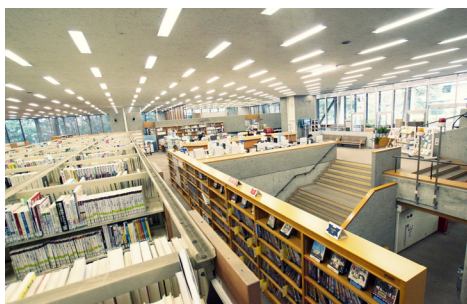
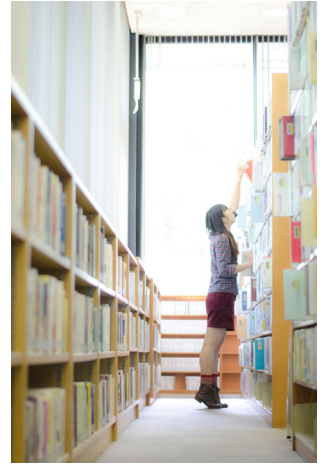
図書部は、多くの教職員部員・学生サポーターの発案・協力により運営されてきました。ここでは、様々な企画を担当してくれた皆さんに、図書部の思い出を語っていただきました。

■初期メンバー：情報システム課 角田 浩司さん「探していた1冊、静かな場所」

現在キャンパスの中でも一番南側、国分寺崖線端に位置するのが、進一層館（通称：Forward Hall）です。この建物は2013年3月までは図書館として利用されていました。1968年に大学図書館としては初めての日本建築学会賞を受賞し、海外からも「一般にイマジネーションに欠ける日本の大学図書館建築の中にあって、エキサイティングな例外は東京経済大学図書館である。」と高い評価を得たこともあります。

この歴史ある建物（ここからは旧図書館と称します）の図書施設としての利用が、新図書館の利用開始により2013年度末までとなっていたことから、旧図書館の利用促進と学生の読書推進を第1の目的にしつつ、新図書館竣工後の新たな図書施設のあり方について試行したのが「図書部」です。私を含め多くの教職員や学生によるプロジェクトで、実施にあたっては、「TOKYO TOP 30」計画「2013年度学内GP助成」から予算面も含めた多大な支援を頂きました。

活動内容は次の4つ、1) 教職員・学生協働での活動（図書部だより等）、2) 教育（教員）との新しい連携の形を試行（読書会等）、3) 図書館空間の新たな利用や新しいサービスの試行（図書展示、選書ツアー等）、4) 図書館の利用者数向上イベントの実施（フォトコンテスト）、としました。またライブラリーアイデンティティとして、ウインドブレーカーとシンボルマークの作成も行いました。



ただ個人的には別の想いがありました。特にイベントもなく、思い入れのある図書館が閉館になるのは寂しい思いがしたのです。一見堅苦しいことを目的にしていたが、長年活躍してくれた旧図書館を愛と惜別の想いを持って見送ってあげたかったです。気分は「おくりびと」でした。

特に個人的に印象深いのは写真コンテストです。秀逸な作品が集まったと思いますがその中でも金賞、銀賞受賞作品は、旧図書館の静謐さや開放感をよく表している個人的にもお気に入りの写真です。

閉館最終日は来館記念品「ピンバッジ」の配布と相澤伸依先生の読書会『きりこについて』（西加奈子）を行いました。授業が行われない日であったにもかかわらずたくさんの学生が旧図書館を訪れ、ゲストブックにも惜別の言葉をたくさん書いて頂き、盛況のうちに幕を下ろすことができました。教職員にとって図書館は「勤務先の施設」かもしれないが、学生にとっては「あの本を探した場所」「仲間と過ごした静かな場所」であるんだな、とあらためて感じました。

■読書会担当：経営学部 相澤 伸依 先生「読書会を始めたとき」

すっかり図書部の定番イベントとなった読書会。第一回読書会が開催されたのは、2013年11月15日のことでした。

私が読書会を企画するきっかけになったのは、自分の好きな本を学生に読んでもらいたい、そして感想を聞いてみたいという気持ちでした。授業で本を紹介することはしょっちゅうですが、学生が実際に本を読んで何を考えたか意見を聞く機会はあまりありません。学生のリアクションを直に受け取る場として企画したのが読書会でした。

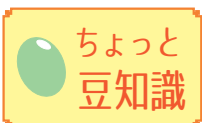
企画したはいいものの、お題本を何にしよう？と考えて思い浮かんだのが、小谷野敦『もてない男』でした。これは、私自身大学生の頃に手に取り、内容におおいに刺激を受けた作品です。図書部の活動コンセプトは「自分が読んで面白いと思った本を紹介する、語る」でしたので、何度も繰り返し読んでいるこの愛読書を学生と味わうことに決めました。

会当日、学生たちの反応はどうだろう？と不安だったのですが、杞憂でした。恋愛をテーマにした本なので、参加者はついつい熱くなって、予定の一時半はあっという間に終了。自分では考えられなかった意見を学生からもらうことができ、私は愛読書を新鮮に読み直すことができました。

学生とともに本を語る楽しさがクセになり、この後も定期的に読書会を企画しました。私は現在、研究のために国外に滞在中ですが、大学に戻ったら再び読書会を企画するつもり満々です。本を通して学生から刺激をもらうのが今から楽しみです。



小谷野 敦
『もてない男—恋愛論を超えて』
ちくま新書、1999年1月



日活の社長であった堀久作氏（大正5年卒）は、本学が大学に昇格した昭和24年に葵友会会長に就任、その後本学理事長にも就任し、学内に「堀図書館」を建設、寄贈しました。【東京経済大学WEBサイト：2014.11.2付記事「第19回ホームカミングデー・2014 葵友会秋季懇親会」開催！より】
◆ URL : <http://www.tku.ac.jp/news/O14405.html>

■ビブリオバトル担当：経営学部 板橋 雄大 先生 「今、まさに、それについてあれする」

私が図書部の正式なメンバーに加入させていただいたのは、2015年度からのことです。活動にはその前からいろいろと触れさせてはもらっていましたが、図書部の一員として自分自身が企画・運営をする立場になったわけです。

もちろん、図書部に加入したいと思うほどですから、私自身本を読むことが好きであるわけですが、実は私が好きなのは、SF系の小説です。アイザック・アシモフの『ファウンデーション』シリーズを読んで、研究テーマを決定したこともあるし、デイヴィッド・ファインタック『銀河の荒鷲』は、今でも最も好きな本の一冊です。オースン・スコット・カード『エンダーのゲーム』は、自分自身の最善が常に、全体の最善となるわけではないし、全体の最善が正しいことであるとも限らないことを教えてくれました。どれも、私の人生に大きな影響を与えてくれました。他人から見れば、SFなんて、と思うかもしれませんが、どんな本からでも、自分自身を変える一節が見つかる可能性はあると思います。

そんな素敵な本との出会いを皆さんにも味わってほしくて（本当は、素敵な本を私に紹介してほしくて）、読書会を主催しました。1回目は、ジャレド・ダイヤモンド『文明崩壊（上）』を取り上げました。2回目は、私が紹介するのではなく、もっと多くの人々に紹介してほしくて、ビブリオバトル（知的書評合戦）を行いました。ビブリオバトルは、教職員編と学生編の2回行いました。どの回も、学ぶことが多く、この世の中には素晴らしい本がまだまだあるんだなと感じました。限られた人数ではありましたが、皆さんと自分自身の好きな本について語り合ったこの経験は、胸躍るものでした。

図書部の活動は、今回で一旦ピリオドを迎えますが、これからも本との一期一会を大切に、あなたの人生を変える一冊を探してほしいと思います。



ジャレド・ダイヤモンド著／楡井 浩一 訳
『文明崩壊－滅亡と存続の命運を分けるもの（上）』
草思社文庫、2012年12月



■図書課 清原 文さん

2013年度からはじまった図書部の活動。読書の良さを伝えるためのイベントを実施してきました。読書会やビブリオバトルでは、授業とは異なる、より自由な雰囲気の中で本について語り合うことができます。参加者からは「楽しかった」「思わぬ発見があった」といった感想がよせられました。他の人の意見から新しい発見を得るだけでなく、考えをまとめる力、人前で話す力も磨くことができます。

また図書館では、国会図書館見学や書店での選書ツアー、神田神保町古本屋街散策など、キャンパスを飛び出しているツアーイベントも実施しています。2015年は真夏の大雨の中、国立の鉄道総合研究所図書室を見学させていただきました。2016年度も学外での見学ツアーや、本に親しんでもらえる活動を計画中です。本を利用するのはもちろん、いろいろなイベントにもぜひ参加ください。

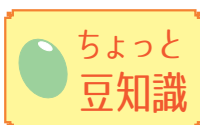
■図書課長 久世 泰子さん

本を読むことは、先人の叡智に触れて知識を得たり、作家の文章や表現を鑑賞したり、ストーリー展開に心弾むこともあれば、知らなかった史実を目の当たりにして愕然とする…そうした衝撃をそれまでの自身の考えや経験への問いかけとし、咀嚼しながら、蓄積・熟成させる、いわば、内なる私的作業といえます。

その内なる私的作業を次の段階へとステップアップさせてくれたのが、図書部イベントでした。お題本について各自の思いを語り合う読書会、紹介したい本を制限時間内にプレゼンするビブリオバトル、親しみのある物語や作家について聞き、語るブックトーク。自分の言葉で人に思いを伝えることで、その感動を分かち合える喜びがある一方、同じものを見ている人はそれぞれ捉え方が違うことを知ります。けれど、意見が分かるときの不思議と重々しい雰囲気にはなりません。それは、同じ本を手にした仲間という「同じ釜の飯」的な空気があるからでしょう。

図書部のイベントには、いつも「共感」と「気づき」、まさに一人の読書では味わうことのできない醍醐味がありました。この醍醐味を一人でも多くの学生さんに味わってほしいと思います。

図書部が仕掛けてくれた意義ある活動をこれからも引き継いでいきますので、学生のみなさんの積極的な参加をお待ちしています！



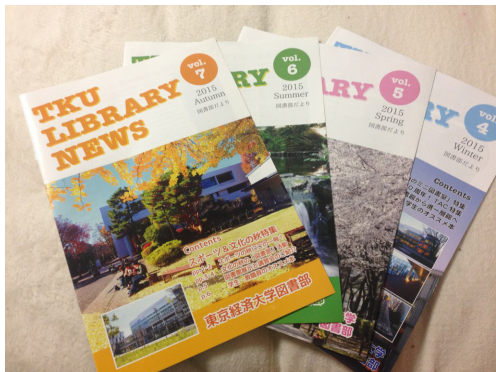
2014年に竣工した新図書館は、5号館とともに2014年度グッドデザイン賞を受賞しています。植物との共生を図った特徴的な外観と光溢れる室内空間が、良質な学校空間として評価を受けました。

【本学WEBサイト：2014年11月5日付大学ニュース記事より】

◆ URL : <http://www.tku.ac.jp/news/O14414.html>



■図書部だより『TKU LIBRARY NEWS』担当：学習センター 田中 理沙さん 「図書部活動に参加してみて」



図書部では、主に『TKU LIBRARY NEWS vol.3～8』の編集を担当させていただきました。本来業務の合間を縫っての作業でしたが、取材先や寄稿者、図書部をはじめとする同僚の皆様のご理解・ご協力を得て、計6号発行することができました。改めて、すべての関係者の皆様に御礼申し上げます。

図書部の活動を通して、大学の歴史や地域との関係などに興味・関心が広がるとともに、他大学図書館やラーニングcommonsでの先進的な取り組みを拝見する機会も増え、大学関係者の教育への情熱に大変刺激を受けました。

本学の図書館は、建物、蔵書ともに非常に素晴らしいものですが、学生・教職員の皆様に存分に活用していただくことで、より良いものになっていくと思います。長いようで短い4年間の大学生活。学生の皆さんに、良い本との出会いがありますよう、お祈りしております。

今後は1ユーザーとして、図書館の益々の発展を楽しみにしています。

■学生サポーター 経営学部 3年 井上 理 (いのうえ おさむ) さん：活動の感想・図書館紹介

最初の頃の図書部

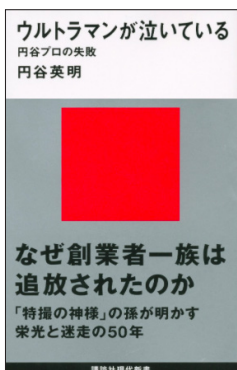
最初の頃の図書部は、何を行うのかも定まっていなかった状態でした。その中で意見を出し合い、当面の主な活動方針が決定されたのです。「図書部だより」の創刊、学校の著名人へのインタビュー、読書会の開催などです。自分はおススメの本を紹介することになったのですが、体裁を図形で表現したり、本の選択で人に受けやすくするにはどうしたらいいかなどについていろいろと試行錯誤を重ねながらやっていきました。自分の活動が学校の活動の一環となり、お気に入りの本が紹介されたことで、達成感と幸福感を得ることができたのが、この活動で何よりも得られたものでした。

武蔵野市立「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス」について

武蔵野プレイスの特徴は三つありました。一つ目は、建物・照明などに曲線が多用されたり、建物が開放的な雰囲気が漂っていることです。二つ目は、「利用者の声」というコーナーが設けられたり、利用者のために荷物を入れるカゴが用意されているなど、利用者のための工夫がされていることです。三つ目は、ただ単に図書館機能だけではなく、生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援の機能を併せ持った複合機能施設で、様々な生涯学習活動を行えるようになっていることでした。これら3つの工夫から、この武蔵野プレイスは、本をただ単に読んだり借りたりするためだけに使う図書館ではなく、どんな人にもどんな目的にも使うための開かれた図書館を目指しているということが分かるのです。



■学生サポーター コミュニケーション学部 4年 宮沢 柁志 (みやざわ まさし) さん：書評



円谷英明『ウルトラマンが泣いている—円谷プロの失敗』 講談社現代新書、2013年6月

今年で生誕50周年を迎え、今なお夢を与え続ける「ウルトラマンシリーズ」。しかし、その夢を創り続けた企業の末路は「完全子会社化」というあまりにも現実的なものでした。この本は「特撮の神様＝円谷英二」の実孫である英明氏が、身内だからこそ語れる円谷プロ崩壊の『真実』を綴った回顧録です。「海外進出から生まれた、今も続く泥沼裁判」「制作費削減のためのCG導入が、予想以上の大赤字だった」「創作者と経営者の価値観の相違が生み出した悲劇」など、当時夢中になって作品を観た子供たちの心をえぐる『真実』がここにあります。ウルトラマンへの見方が変わる、おすすめの一冊です。



武蔵野の森との共生をコンセプトに設計された図書館は、エコ&ハイテク機能が盛りだくさん。閲覧席の天井照明は窓から差し込む光を検知して自動調光しています。春や秋など空調のない季節は室温に応じて換気窓が自動開閉。このほか、壁面緑化、太陽光パネル、LED照明、床下空調などCO2の排出を抑える工夫が至る所に。自然と調和した省CO2建築として、平成24年度第1回住宅・建築物省CO2先導事業(国土交通省)に採択されています。

学生・教職員のオススメ本

読書好きの皆さんより、幅広いジャンルのオススメ本を紹介してもらいました！



経営学部 1年 渡邊 彩佳 (わたなべ あやか) さん

夏川 草介『神様のカルテ 2』小学館、2010年9月

医療をテーマにした作品には医療ミスや敏腕医師が登場するなどドキドキハラハラするスピーディーなものがたくさんあります。しかし『神様のカルテ』では、大きな何かが起こる訳ではありません。どの病院でも起きているであろう事に焦点を当てた優しくも考えさせられる作品です。2では末期ガンの恩師を担当することになった一止が患者のために何ができるのか奮闘しながらも成長していきます。1～3があります。いずれもオススメです。【1階 課外図書コーナー 和書5番書架に所蔵】

経営学部 3年 志田 拓哉 (した たくや) さん

石持 浅海『月の扉』光文社文庫、2006年4月

※2016年1月開催「ビブリオバトル(学生編)」チャンプ本

中学生で、月のお小遣い1000円の時に600円は痛かったです。でも、良い買い物でした。ストーリーは、空港で乗客を乗せた旅客機がハイジャックされることから始まります。要求は一人の男性を”連れてくる”こと。異常な要求ながらも、警察との交渉、乗客達との駆け引きを順調にこなしてゆく。しかし、機内のトイレで乗客の一人が死体となって発見されたことで、事態はさらに急展開する。機内という密室で、乗客は自殺したのか、殺されたのか。なぜ?どのように?かつてないほど、美しいミステリーです。【1階 ブラウジングスペースで展示中】



経済学部 岡本 英男 (おかもと ひでお) 先生

J・M・ケインズ『平和の経済的帰結』(『ケインズ全集 第2巻』) 東洋経済新報社、1977年1月

新年を迎えると新たな気持ちで読みたくなる本がある。私自身今年もまた正月のテレビ番組に飽きたころ、一人書齋にこもってこの本を読んだ。学生諸君にはこの本は少し難しいかもしれないが、それでも若い時代にこそ是非読んでもらいたい。その本の名は当時36歳であったケインズを一躍世界的に有名にした名著『平和の経済的帰結』(1919年)である。ケインズはこの本のなかで、敗戦国ドイツに過大な賠償負担を負わすベルサイユ条約の空虚な幻想を徹底的に批判し、戦勝国に激情と貪欲に屈服するのではなく、ヨーロッパの経済構造の現実を見据え、ヨーロッパの経済的一体性の回復こそが真の安全保障につながることを説得力あるかたちで主張している。

若い学生諸君には、世界と日本にとって真の安全保障とは何か、平和と文明を守るために今どうすればいいかをこの本を読みながら真剣に考えて欲しい。【3階和書コーナー 2番書架に所蔵】

経営学部 板橋 雄大 (いたばし たけお) 先生

アイザック・アシモフ『ファウンデーション』ハヤカワ SF文庫、1984年4月

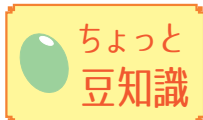
心理歴史学とは、一定の社会的、経済的刺激に対する人間集団の反応を扱う数学の一分野であり、ハリ・セルダンによって深遠な統計科学に仕上げられた…とされます。そう、これは空想科学(SF)の中の学問に過ぎなかったのです、少なくとも当時は。銀河帝国は一万二千年間にわたる繁栄の最後の段階にありました。ハリ・セルダンは、心理歴史学による予測計算を行い、帝国の崩壊とそれに続く三万年の暗黒時代の到来を知ります。彼は、暗黒時代を千年に短縮するために、千年間の人類の歩みを予測し、介入し、望ましい方向に操作しようとしています。果たして、セルダンの計算通りに、人類は暗黒時代を千年に短縮できるのでしょうか。この本はSFの名著ですが、驚きなのは、心理歴史学という概念が多くの学者や学術の卵を刺激し、今日のゲーム理論の隆盛へとつながったことです。ぜひ、空想科学小説が現実になる興奮を味わってください。【1階 課外図書コーナー 和書5番書架に所蔵】



図書課(史料室) 永山 和彦 (ながやま かずひこ) さん

山下 山人『フルトヴェングラーのコンサート 解説・全演奏記録』アルファベータブックス、2015年12月

フルトヴェングラー(以下WF)って誰? WFは、戦前、戦中、戦後のベルリンフィルハーモニーの指揮者であり、作曲家である。ヒトラー時代のWFは今も議論が絶えない。さて当著は、WF生涯数千回のコンサートに対する考え得る限りの考察を行った書である。LPモノラルに慣れた耳ではCDで聴くWFの録音には落胆せざるを得ず、高性能蓄音機による再生音の凄さに脱帽し、1960年代からのWF関連書物に不満を抱き続けた私だが、日本人による画期的な書に出会い、驚いている。興味尽きない膨大な表とグラフ、憶測を排した客観的データに基づく正確な分析、謙虚でありながら至る所で通説を覆す論述、WFへのリスペクト等々、最上級の読書の喜びを体験した。Web情報洪水故にニワカ説が氾濫する昨今、誠実さの有難さを思う。【地下1階 集密A和書コーナー 2番書架に所蔵】



実は、東工大と東経大の図書館は同じ設計会社が建築しました。東工大は船をモチーフにしていますが、本学にも船で見かける照明があるんです(どこかわかります?)。さしずめ東経大は弟分図書館といったところでしょうか。(2015年4月11日の図書館Twitterより)

◆ URL : <https://twitter.com/tkulibrary/status/586852405196627968>

お知らせ・ご挨拶

図書館展示のご案内

1階を中心に多数のテーマ別コーナー・選書展示を行っています。図書館を探検してお気に入りの見つけてネ！



ピブリオバトル参加本（期間限定）



「Books for Freshers」コーナー



教職・資格応援本コーナー



新着図書コーナー（随時入れ替え）



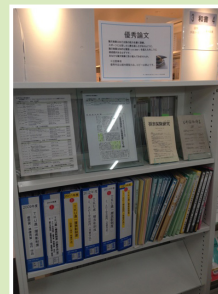
箱根駅伝展示（期間限定）



英語多読教材コーナー



学科別選書コーナー



優秀論文紹介コーナー



黒板本棚（随時入れ替え）

東経大関連 Twitter、続々発信中！

いろいろなアカウントで、学生生活に役立つ情報を発信しています。ぜひフォローして、活用してください。



図書部
@tku_toshobu
図書部の活動情報、学内のイベント情報、本や映画の紹介を配信



図書館
@tkulibrary
イベント情報、展示や新着図書の紹介、最新ニュースをお知らせ



学習センター
@TKU_learning
学習相談や講座の情報、KIHACHIRO 文庫の新着図書を紹介



広報課
@TokyoKeizaiUniv
公式サイトでのニュース、イベント情報、報道発表、重要なお知らせ



情報システム課
@tku_iss
ヘルプデスクの方がパソコンの便利な使い方や PC 教室開室予定を紹介



生活協同組合
@tku_book
教科書の入荷状況から学食のメニューまで幅広く情報提供

2015 年度図書部長からのご挨拶

まず、「図書部」の各種イベントにお力添えいただいた皆様、『図書部だより』に快く原稿をお寄せいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。東経大「図書部」では、新棟になったことを契機に多様化がすすむ大学図書館機能の活用と学生の読書促進の両面を考慮して諸活動に取り組んでまいりました。「図書部」として進めてきた図書館の利用促進活動はこの春でひとまずの区切りとなりますが、これまで培ったノウハウをもとに、引き続き新年度より図書館による様々な活動が行われるものと期待しています。今後も学内の皆さんが図書館に関心を持ち、正課・課外での活用を進めて下さることをお願い申し上げます。（経営学部・新正裕尚）

教育改革支援制度（進一層トライアル）採択事業

『TKU LIBRARY NEWS（図書部だより）vol.8』2016年3月発行

発行元／東京経済大学 図書部 図書部員：相澤伸依、板橋雄大、新正裕尚（以上、経営学部専任教員）

鴨下彰子、小川紀子、清原文（以上、図書課）

網中真志（学生課）、田中理沙（学習センター）